

4 先輩委員の経験から学ぶ 活動豆情報

民生委員活動について、研修や資料から学ぶことも多いですが、一番参考になるのは、やはり先輩委員の経験と知識です。頼りになる先輩委員も、ひと昔前はみな新任委員でした。

このコーナーでは、先輩委員の経験談を少しご紹介します。 ※掲載内容は、すべて匿名表記（当会事務局・編）

豆1 長話は楽しいけれど……

高齢者調査やチラシの配付など、1日で何軒も回らなければいけない時が、年に数回あるんです。

なかには、ありがたいことに、私の訪問を楽しみにしてくれている方がいて、その人たちと話し始めると、玄関先でも1・2時間は当たり前といった感じです。楽しいんですが……、なかなか終わりにできないんです。そのため、全然予定通りに回れないことがしばしばありました。

さすがに、毎回それでは困るため、信頼関係ができた今では、だいたい2・3回に1回はお付き合いして、後はひたすら謝りながら立ち去るように次のお宅へと向かうようにしています。

すべて断ってしまうと、なかなか信頼関係はできませんし、その塩梅は難しいんですが、対象者にあわせて考えるようにしています。

新任委員の方は、まずは顔を覚えてもらった方が、後々いろいろな話を伺えるようになるので、初めは1日で回る軒数を気にし過ぎないほうがいいかもしれませんよ。

豆2 THE 質問魔

幼少の頃より「わからなければすぐ質問」が信条の私は、民生委員なり立ての頃、とにかく先輩委員に事あるごとに質問をしていました。

今思えば、しつこいくらいしていたなど、少し恥ずかしい限りです。ただ、お嫁に来たので地域のことや昔からの人間関係にすごく詳しいわけでもないですし、まして福祉分野は初めて。最初は、何を質問してよいのかすらわからない状態からのスタートでした。

当時の先輩委員も、質問の多さに辟易していたかもしれませんが、「やる気はあるけど、わからないんです！」という雰囲気、私なりに謙虚に聴いていたら、その都度きちんとお話ししてくれました。

先輩委員も人の子です。聴き方一つで、きちんと話してくれると思いますし、ゼロから関係を作っていくには質問が一番だと思います。

豆3 怪しい者ではありません！

民生委員になり立ての頃、うっかり身分証や民生委員バッジを付け忘れて、見守り対象者や（チラシなどの）配付対象者のお宅へ伺ってしまったことがありました。

そんな時、初めて伺ったお宅で、何も身分を明かす物がなかったので、完全に不審者扱い……。配付するチラシは持っていたものの役には立たず、うまく民生委員について説明しようとしても焦っていたうえに新任でそれほど理解しきれていなかったため、しどろもどろ状態でした。

顔を真っ赤にして説明した甲斐もあって、何とか誤解はとけましたが、訪問される側で考えてみると、確かに私は“怪しい者だ”と思い直しました。

それ以後は、出かける際は、点呼のように持ち物確認をするようになりましたし、訪問される側の都合も考えるようになりました。